

APO Letter

2023

Vol. 83

January

〈巻頭インタビュー〉

■患者として、薬局に期待すること

患医ねっと 代表
鈴木 信行 氏



患者として、薬局に期待すること

C O N T E N T S

● Expert Interview	1
患者として、 薬局に期待すること	
● 社内学術大会・オンライン開催 ファーマシーフォーラム 2022	7
● 健康サポート薬局 Report 飛び出せ! 健康サポート薬局	11
N-NOSE® 協業開始記念対談	13



患医ねっと 代表

鈴木 信行 (すずきのぶゆき) 氏

プロフィール

1969年生まれ。生まれつき二分脊椎という疾患をもち、20歳で精巣がん、46歳で甲状腺がんに罹患し、現在は経過観察中。大学卒業後、製薬会社にて13年間にわたり製薬、製剤に関する研究に従事。退社後、医療者と患者をつなげる組織「患医ねっと」を立ち上げ、イベントや研修会を企画運営するとともに、患者らが集える場として、カフェ「みのりCafé」を10年にわたり経営。現在は患者視点からの薬剤師向けの講演、研修・執筆や薬局のコンサルティングに特化し、全国各地で精力的に活動中。著書に「客に選ばれる薬局づくり(薬事日報社)」「薬剤師の村松さん(評言社MIL新書)」など。上智大学非常勤講師。



[インタビュアー]

紺野 良太
Ryota Konno

東京東ブロック 兼 東京北ブロック
ブロック長

2015年に公表された「患者のための薬局ビジョン」において、「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ」として、薬局においては今後、対物業務から対人業務への移行、そして地域との連携がより重要であるとされました。そして今後、2021年に新設された地域連携薬局の認定基準を満たし、より地域と連携した薬局となるためには、地域住民のみならず、地域の商店や企業、行政機関、また他薬局との連携も必要となってきます。今回は「患者として、薬局に期待すること」と題し、自らが患者、身体障がい者として、患者の側から薬局に向けてより良い医療を実現するための情報発信を続けている、「患医ねっと」代表の鈴木信行さんにお話を伺いました。

薬局が主体となって情報発信を行うために

紺野 本日はお忙しいところ、ありがとうございます。そうこう薬局グループでは、「みんなの健康ステーション」として、健康を願うすべての人びとを支える薬局を目指して、かかりつけ薬剤師の育成や健康サポート薬局の認定取得、健康イベントの実施など、地域

住民の皆さまに向けてさまざまな活動に取り組んでいます。今後、地域と連携し、より地域と密着した薬局となるために、今日は鈴木さんにいろいろとアドバイスをいただければと思っています。よろしくお願ひします。

鈴木 よろしくお願ひします。私自身、がん患者として薬局を利用させてもらっているなかで、薬局に期待することが多くあり、本日は私が日々考えていることをお話しさせていただきます。

現在そうこう薬局をはじめ多くの薬局では、地域の方々の健康増進に向けた活動を積極的に行っていることだと思います。ただ、患者の側から見たときに、外から見ただけでは特徴が分からないというところが、ひとつ課題としてあるかと思っています。そうこう薬局として「みんなの健康ステーション」を目指すのであれば、処方箋を持たない人がどれだけ入りやすく、相談しやすい雰囲気になっているかという観点が重要です。私の著書「薬剤師の村松さん」では、カフェを併設している薬局という仮想的店舗を舞台として、薬局が地域に溶け込むためのヒントを数多く書



毎週1回カフェを借りて、自らカウンターに立ち、地域の方と語り合う

いています。私自身、患者さんが集う場としてのカフェを10年にわたって経営しており、現在も週に一度はマスターとしてカウンターに立ち、地域の方々と語り合っています。実際には規制などもあり、難しい面もありますが、薬局の特徴を打ち出し、差別化を図るためにできることはまだまだたくさんあると思います。

また2021年から地域連携薬局認定制度が始まり、地域住民のみならず地域の企業や他薬局との連携も求められています。最終的に連携先薬局を選ぶのは地域の商店や企業、行政機関の方々です。そのなかで、そうこう薬局と連携したいと思えるように、薬局の特徴をもっと前面に打ち出して情報を発信することがまず大切だと思います。

紺野 ありがとうございます。情報発信については、確かに薬局から地域に向けて主体的に情報を発信していくことが必要だと感じています。地域連携薬局という在り方を考えたときに、医療介護だけではなく、それ以外の商店や企業などにも情報を発信していかないといけないと思うのですが、そのなかで多くの薬剤師が、最初のきっかけが掴めずに苦労しているのではないかと思います。

鈴木 仰る通り、地域のなかで生活者の近くで活動しているのは医療、



薬剤師研修会での講義

介護の関係者はごく一部で、むしろ自治会や民生委員、商店などの方が多くを占めています。そういった方々に情報を発信していくためにはまず、その地域でのキーマンが誰なのかを捉えることが重要です。ただやみくもに情報を発信しても決して効果は良くありません。具体的には地域包括支援センターが主催する地域ケアネットワーク会議などに参加し、そこで発言をされている方とコンタクトを持つことも、ひとつのきっかけ

になると思います。私の経験では、医師や看護師、あるいは病院の薬剤師の方々がよく参加されているという印象ですが、薬局薬剤師の方はあ

まりお見かけたことがありません。**紺野** まずそういった場に出ていくことが、きっかけになるといえますね。よく分かりました。

患者協働の医療とは

紺野 次に患者さんとの関係において、私たちが街の「健康ステーション」となるためにできることについて、教えていただけますか。

鈴木 患者さんとの関係性の構築においては、まず目の前の患者さんがどういった人なのか、処方箋を通じての情報だけではなく、その人の生活背景や考え方を知ることがとても重要です。そのためには患者さんに服薬指導をする際に、ひとつついでいいので生活に関する雑談をしてほしいと思います。服薬指導ももちろん大切ですが、患者さんの1日の生活をイメージすると、患者さんが薬と関わるのは数回の服薬時だけです。生活に関するお話を通じて、その人の生活全般の環境や考え方を知り、患者さんと関係性を築くことが大切です。**紺野** 鈴木さんの著書のなかでも、8割を患者さんに話してもらおうつも

りて傾聴することが必要と書いてありますね。

鈴木 一般の人は生活での困りごとなどを誰かに聞いてほしいと思っっています。しかし薬局に来る患者さんの多くは、薬剤師を話し相手や相談相手として考えていないのではないのでしょうか。そうすると薬局に求めることが調剤のスピードになってしまい、少しでも早く薬を出してほしいとなります。もちろんスピードも大切な要素ですが、患者さんが帰るまでに、薬以外で何を提供できたのか、薬局の個性であり、これからの薬局の価値だと思っています。

紺野 関係性ができていけば、待つていただいている間に、逆に何を提供してもらえるのだろうかという期待感を患者さんに持っていただくこともできそうですね。あと鈴木さんの著書では、「患者協働の医療」ということにも触



れられています。この考え方について、教えていただけますか。

鈴木 薬剤師は患者さんの生活背景を知ることに加えて、その患者さんの健康観を知ることが大切です。医療者は病気がない状態が健康だと一元的に捉えがちですが、健康観は一人ひとり異なります。楽しみを我慢しても病気を根治したいと考える人もいれば、根治はできなくても生活

や趣味を楽しめることが健康だと考える人もいます。治療の程度についても、病気になる前の状態に戻したいという人、何とか仕事ができればいいと考える人、あるいは孫と遊ぶことができればそれで十分と考える人など、人によってさまざまです。

「患者中心の医療」とは、多職種が連携し、チーム一丸となって患者さんのために医療を提供するスタイル



市民向け健康イベントでの講演

のなかで配るなど、まだまだできることはたくさんあると思います。**紺野** たくさんヒントをいただき、ありがとうございます。実はそういう薬局のかけつけ薬剤師は名刺をお渡ししたり、「おくすりの手紙」というリーフレットを患者さんに定期的にお配りしています。そういう薬局では健康サポート薬局として、薬局の中で健康チェックなどのイベントも多く開催しているのですが、なかなか薬局の外にまで活動を広げることが難しいという悩みもあります。

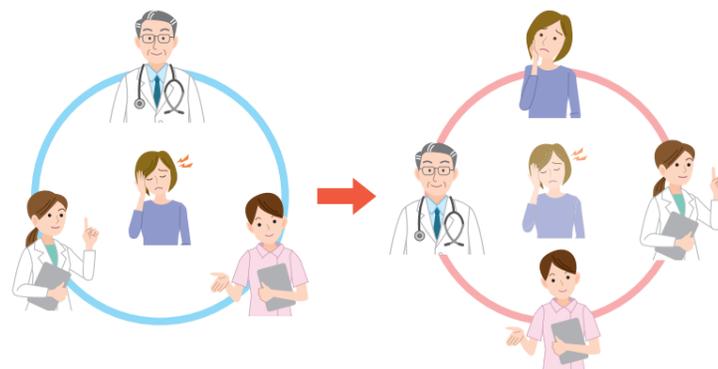
鈴木 かけつけとして指名いただいた薬剤師の方は、名刺をお渡しするなど自分を覚えてもらえる工夫をしていると思いますが、初めて薬局を訪れた患者さんにも名刺をお渡ししても良いと思います。ビジネスの場であれば初対面で名刺をお渡しするのが常識ですが、不思議と薬局ではあまり実施されていないようです。それだけで他の薬局との差別化になると思います。また同じく初診の際にDMをお送りする旨を患者さんに了解いただいたうえで、それぞれの店舗のリーフを作成し地域の活動

鈴木 「患者のための薬局ビジョン」で対物業務から対人業務への移行が必要と言われて7年が経過しているなかで、多くの薬局が患者さんとの信頼関係を築くべく努力されていると思います。ただ今後、薬や処方に関する情報提供などがオンラインで済む時代になってきたときには、も

これからの薬局に期待すること

紺野 薬局を取り巻く環境として、オンライン服薬指導や電話によるフォローアップなどが始まっており、また2023年からは電子処方箋もスタート予定です。このように環境が変化するなか、これからの薬局に期待することをお話ししていただけますか。

鈴木 「患者のための薬局ビジョン」で対物業務から対人業務への移行が必要と言われて7年が経過しているなかで、多くの薬局が患者さんとの信頼関係を築くべく努力されていると思います。ただ今後、薬や処方に関する情報提供などがオンラインで済む時代になってきたときには、も



患者中心の医療(左)と患者協働の医療(右)の概念

もっと輝く薬局となるために ～鈴木信行さんからのアドバイス～

- ① **店舗の特徴を打ち出そう!**
処方箋がなくても入りやすい薬局ですか?
他店との差別化はできていますか?
- ② **地域のキーマンを見つけよう!**
地域ネットワーク会議などに積極的に参加しましょう。
- ③ **生活に関する雑談を通じて患者さんを知ろう!**
患者さんは生活に関する話を聞いてもらいたいと思っています。
- ④ **患者さんの健康観を知り、多職種で共有しましょう!**
病気がないことイコール健康、とは限りません。
- ⑤ **RCSの方々の更なる活躍に期待しています!**
患者さんにファンになっていただくために、できることはたくさんあります。



(本インタビューは2022年10月に実施されました)

まな人と関わることで、薬局本来の機能について広く広報していくという活動をしていただき、市民から信頼され、相談したくなるつながりを多く作ってほしいと考えています。**紺野** 本日は貴重なアドバイスをいただき、ありがとうございます。私たちも今後は新しい薬局の姿を考えていく必要があると思っています。本日のお話を聞いて終わりでではなく、店舗に持ち帰って、ひとつひとつ具体的に実践してまいりたいと思います。

う一歩踏み込んで患者さんの日常生活レベルでどれだけ信頼関係が築けているかが重要になってきます。薬に関する困りごとだけではなく、生活全般に関する相談相手として薬剤師が位置付けられていければ、どれほど環境が変わっても恐れることはありません。**紺野** そうごう薬局グループでは、RCSと呼ばれる薬局事務スタッフが薬剤師と同様に、患者さんと薬局との関係づくりを支援しています。薬剤師とRCSが協力し、患者さん

との更なる関係性を築いていけば、理想に近づけるかもしれません。**鈴木** それは素晴らしいですね。薬の専門的なところはもちろん薬剤師の管轄になりますが、患者さんとの関係性構築においては、薬剤師でなくてもできることはたくさんあります。RCSの方々がもっと地域の活動に出て行ってもらえればと思いますね。**紺野** 他に、患者さんとの関係性を深めるためのアイデアなどがあればお教えください。





PHARMACY FORUM 2022

ファーマシーフォーラム 2022

人をつなぐ、医療をつなぐ

～変革期に私たちができること～

坂本社長のメッセージ



ファーマシーフォーラムは、今回で24回目を迎えます。社会的課題が複雑化するなか、保険薬局が地域医療の一員として、地域住民の生活を支える役割を担っていくためには、患者さんとそのご家族、医師、看護師、ケアマネジャー、薬剤師会、行政の方々と広く情報を共有し、連携することが重要視されています。薬学的管理においても、オンライン服薬指導やリフィル処方、2023年1月より開始予定の電子処方箋など、大きな変化の時代を迎えています。私たちはこの変化を恐れず、柔軟に適応し、自ら課題を乗り越える必要があります。この変革期に際して、当社は「よい医療を支え、よりよい社会づくりに貢献する」の実現のために、日ごろから薬局店舗で行っている業務の工夫や、研究成果を共有すること、そしてここで得た気づきや学びを各店舗に持ち帰り、取り組みをさらに広げることによって、社会的課題の解決と、よりよい社会の更なる発展につながることを期待しております。「未来の社会・医療を支えるヘルスケア業界のフロンティアカンパニー」の実現のために、医療連携を基本に、社員一人ひとりが行動をおこし、地域医療や社会と繋がりを持ち、社会的課題の解決に率先して取り組んでほしいと思います。

特別講演

地域をつなぐ薬局の役割 ～まちづくりのタネをまこう～

ご講演概要 (レジュメより一部抜粋)

2015年に「患者のための薬局ビジョン」が策定された。ここには患者中心の医薬分業の実現に向け、服薬情報の一元的・継続的把握と、それに基づいた薬学的管理、指導など、かかりつけ薬局の再編に向けた道筋を大きく示している。健康サポート機能については、今後の薬局の役割として大きな期待がかかっており、介護保険制度の変革に備えた機能の一端を担うと考えられる。

地域医療とは、簡単に述べると「地域住民が抱える健康上の問題や不安などを受け止め、適切な対応をするとともに、その人らしい人生を住み慣れた場所で安心して送ることができるよう、暮らしを支える生活支援」であり、地域医療の主人公は地域住民そのものである。そう考えると、地域医療は個別支援を中心としながら、地域の生活資源や、地域に根差した文化、習慣というものに影響されるであろう。同時に地域医療は、公衆衛生医療そのものであり、半ば忘れ去られているような「公衆衛生の専門職＝薬剤師」という世界が、われわれの現前に広がっているのを見る思いである。

現在6万軒を超える薬局が全国の地域に根差しているとするならば、健康から予防・治療・介護・生活支援までを支える薬局、薬剤師は、膨大な可能性を秘めており、日常生活圏域で果たす役割は大きい。

人をつなぎ、医療をつなぐということは、それぞれの地域に合う手法があり、それは地域医療の主人公である地域住民とのコミュニケーションから生まれていく。

本講演では、いくつかの地域事例を提示しながら、地域をつなぐ薬局の役割の一例として「まちづくりのタネの蒔き方」をご紹介します。



帝京平成大学 薬学部薬学科
社会薬学教育研究センター
教授
小原 道子 先生

2022年9月11日、ファーマシーフォーラムが開催されました。1998年の開催から24回目を迎える今回も、前回に引き続き新型コロナウイルス感染予防対策のため、福岡、東京、大阪の3会場を結ぶオンラインでの開催となり、全国から700名以上が参加登録しました。また特別企画として、「つなぐエピソード」(地域社会、多職種、社内等のつなぐ事例)の紹介動画上映も行いました。

ファーマシーフォーラムとは

「薬剤師自らが研究し、発表する場」として、全国の薬剤師・RCS®など薬局関係者が集まる社内学術大会。本フォーラムは各店舗における優れた取り組みの発表を通じて全店舗で共有・研鑽を積み、質の高い薬局づくりに役立てることを目的としています。

※RCS(ラウンドケアスタッフ)とは
保険請求業務のみならず待合室における患者サービス全般を主として担当するスタッフ

基本プログラム

特別講演 地域をつなぐ薬局の役割 ～まちづくりのタネをまこう～

帝京平成大学 薬学部 薬学科 社会薬学教育研究センター 教授 小原 道子 先生

一般演題

- ・薬剤師発表 21演題
- ・RCS(薬局事務)発表 4演題
- ・ポスター 32演題

特別企画 「つなぐエピソード」動画上映(昼休憩時) ～地域社会、多職種、社内等のつなぐ事例の紹介～



福岡会場



大阪会場



東京会場



開催コンセプト

薬局を取り巻く環境が大きな変革期を迎えている今、求められていることは、患者さんや医師・多職種など「人」とのつながりを強くすること。そして患者さんを孤立させないように「医療」をつなぐことです。ファーマシーフォーラム2022を通じて、参加された方々が「変革期に何が出来るか」の気づきを得て、一歩を踏み出すきっかけになれば幸いです。

受賞演題紹介

※所属は受賞当時

薬学管理向上部門

最優秀賞

豊洲店抗悪性腫瘍薬副作用評価ツールの横展開の取り組み
東京都 そうごう薬局 竹の塚店 荒巻 一誉

優秀賞

来局女性への妊娠・授乳の聴取に対する薬剤師の抵抗感を減らすための取り組みについて
愛知県 ハロー薬局 大治店 上村 真由

特別賞

減薬提案トレーシングレポートの記載内容と受諾可否との関連について
福岡県 そうごう薬局 野方店 林 優子



福岡会場

薬局機能向上部門

最優秀賞

個人在宅患者の嚙下状態に関して各薬剤師の対応の現状の調査
千葉県 そうごう薬局 ららぽーとTOKYO-BAY店 原口 英里

優秀賞

糖尿病患者に対するセルフフットケアの意識づけおよび足病変予防への取り組み
熊本県 そうごう薬局 四ツ山店 上田 崇人



東京会場

RCS部門

最優秀賞

群馬西ブロック対人業務充実のためのRCS業務向上の取り組みについて
群馬県 そうごう薬局 八千代店 永塩 絵里香

優秀賞

RCS主体で行った地域連携活動1年10ヶ月の成果について
沖縄県 そうごう薬局 豊見城店 新里 雅美



大阪会場

ポスター部門

優秀賞

漫然投与からポリファーマシーへの現状調査について
福岡県 そうごう薬局 行橋西宮市店

優秀賞

かかりつけ患者満足度向上のための、かかりつけ薬剤師の詳細な勤務表を配布する取り組みについて
宮城県 そうごう薬局 広原店 上池 剛史

優秀賞

薬局の服薬管理支援に関する患者の認知度・利用状況調査
兵庫県 そうごう薬局 篠山店 高垣卓史

特別賞

うつ病看護ガイドラインに基づく服薬継続に関する薬剤師の認識調査と服薬指導ツールの作成
埼玉県 みよの台薬局 タオ薬局 松原 つぐみ



今回、初めて各運営部とファーマシー中部・みよの台薬局から実行委員が選出されました。オンライン会議が殆どで不安もありましたが、各拠点の皆さんの多大なるご支援によりPF2022を無事終える事ができました。心より感謝申し上げます。今大会では人と医療、そして地域をつなぐ取り組みや、薬局の未来に繋がる素晴らしい発表が多くあったと思います。今後も、ファーマシーフォーラムが患者さんのお役に立てる「価値ある薬局」に寄与することを願っています。

ファーマシーフォーラム2022 実行委員長 広栄薬局 基町店 村田 康滋

口頭演題 「薬学管理向上」部門 13演題

カテゴリー

医薬品適正使用、フォローアップ関連、服薬情報提供関連、薬局新規機能、その他

- ステロイド外用薬に関する服薬指導の質と知識の向上を目指した指導ツールの有用性検証
- インスリン自己注射の液漏れに関する使用手技実態調査について
- 定常状態・薬理作用を使った体調チェックのマニュアル作成とその有用性評価
- 来局患者における入院時情報提供のスキームの有用性について
- 服薬情報提供推進による医療連携強化～補助ツールの可能性～
- 入院時情報提供書のフォーマット作成を通じた病院薬剤部との連携強化への取り組みについて
- オンライン服薬指導における課題抽出について
- ピロリ菌除菌療法におけるフォローアップが偽陰性を減らすことに有用か
- 抗がん剤副作用 悪心・食欲不振に対するフローチャートの有用性評価
- 外来がん治療認定薬剤師育成プログラムを修了して得たこと、学んだこと

医薬品の適正使用やフォローアップなどについて、13演題の口頭発表を行いました。最優秀賞となった「抗悪性腫瘍薬副作用評価ツール」の発表は、抗がん薬の服薬フォローアップへのハードルを下げることを目的に、抗がん薬ごとに副作用の好発時期にフォローアップすべき内容をまとめた「FUシート」を作成し、実施件数や病院の反応等を調査したもので、さらに他の「そうごう薬局」に横展開する取り組みです。また2022年11月に行われた日本薬局学会でも同様の発表を行いました。



口頭演題 「薬局機能向上」部門 8演題

カテゴリー

在宅医療、健康サポート薬局機能、その他

- 薬局でのフットケアイベント実施によるフットフレイル予防効果の検証
- 潜在的な便秘患者の実態調査
- 高血圧・高血糖患者の経口補水液に関する認知度調査・適正使用への介入
- 透析患者のQOL向上のための取り組みについて
- 医薬品のメーカー変更時における、「患者が求める説明」と「薬剤師が必要と感じる説明」のギャップ調査
- 保険薬局における糖尿病患者へのインスリン手技確認に関する課題の抽出



口頭演題 「RCS(薬局事務)」部門 4演題

当社の薬局事務スタッフはラウンド・ケア・スタッフと呼称し、事務作業だけでなく薬剤師と共に患者ケアを行うスタッフであるという想いが込められています。昨今、薬剤師のタスクシフトも重要となっており、調剤補助や地域連携などにも活躍の幅が広がっています。ファーマシーフォーラムでは各地で活躍する4名のRCSが各地での地域連携の取り組みや、対人業務充実の取り組みについて、シンポジウム形式で発表しました。各演者の発表の後に、総合討論を行い、取り組みに込められた想いや得られた経験などについて、全国の社員に発信しました。



熊本県

2022秋のスポーツ・レクリエーション祭に出展

地域スポーツクラブ主催の健康フェアに血管年齢測定器、骨健康度測定器、血圧計などを持ち込み、健康測定を行うとともに健康状態の確認と食事や運動などのアドバイスを実施しました。

10月10日(月・祝) 8:30~11:30

場所 植木中央公園芝生広場

主催 NPO法人u&u Nスポ植木

主管 UEKI・レクリエーション協会

参加薬局 そうごう薬局 菊池店、玉名亀甲店、高瀬店、玉名店、立願寺店、合志店、八代竹原店

2022 秋のスポーツ・レクリエーション祭

入場・参加 **無料**
途中参加も可能

楽しく遊んで体力UP! 運動が苦手でも大丈夫! 家族や友達とスポーツの日を満喫しよう!!

受付にて快調します 体調を確認してからご参加ください

骨密度や血管年齢の測定ブースもあります

アネックス

忍者ランド

モルック

全部で11種類のニュースポーツが体験できます

2022 ※小雨決行
日時 10/10 月・祝

場所 芝生広場(植木病院横)
熊本市北区植木町岩野269-2
持ち物:タオル・水筒
※マスクは必ず着用の上ご参加ください

受付 8:30
開会式 9:00
終了時間 11:30

〈問い合わせ〉TEL: 096-227-6139/090-2580-0622 (上野)

主催: NPO法人u&u Nスポ植木
主管: UEKI・レクリエーション協会
後援: 熊本市 (予定)
熊本県レクリエーション協会

※芝生広場には駐車場がありません。できるだけ公共交通機関をご利用ください。



〈参加者の声〉



教えていただいたことを参考に食生活を少し見直してみようと思います



血圧を測ることはあるが、血管年齢を測ることはないので、新鮮だった

主管のUEKI・レクリエーション協会から今後の活動でも協力していただきたいとお言葉をいただいたので、今後も共同での活動を通じて幅広い年代への健康への啓発活動を実施してまいります。

飛び出せ!



健康サポート薬局

健康サポート薬局の取り組みも店舗内に限らず、地域のイベントに出展するなど店舗外での活動の機会が増えました。ここではそのような取り組みの事例をご紹介します。

※健康サポート薬局: かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、健康サポート機能として、市販薬や健康食品に関するはもちろん、介護や食事・栄養摂取に関することまで気軽に相談できる薬局

そうごう薬局グループの健康サポート薬局 215店舗/741店舗中 (2023年1月10日現在)

宮崎県

「地産地消で健康フェア」に出展

「食育・地産地消の推進」をテーマとした市・大学共催イベントに出展。脳年齢計・骨健康度測定器・パルスオキシメーターなどを持ち込み、健康チェックとアドバイスを実施しました。

11月5日(土) 11:00~16:00

場所 まちなか広場 (地産地消及び健康増進ブース) 物販販売、家庭菜園相談等

まちなかキッチン (郷土料理の調理実習)

主催 都城市、南九州大学

参加薬局 そうごう薬局 山田店、志和池店、都原店、三股仲町店、広原店、たかお南店



◇そうごう薬局にご相談ください!!

在宅医療
病院さんとのケアを自宅に導入して、医師がご自宅を訪れ、病状確認や処置を行います。

各種検査
血糖検査、血圧測定、骨密度測定、パルスオキシメーター測定など、様々な検査を行います。

入道時の情報提供
入道申請書の作成、入道試験の対策、入道後の生活サポートなど、入道に関する様々な情報を提供いたします。

健康相談会の開催
健康相談会、健康相談会、健康相談会

お薬との飲み合わせ
お薬との飲み合わせ、お薬との飲み合わせ

お薬の一包包
お薬の一包包、お薬の一包包

かかりつけ薬局
かかりつけ薬局、かかりつけ薬局

健康相談会
健康相談会、健康相談会

お薬との飲み合わせ
お薬との飲み合わせ、お薬との飲み合わせ

その他、お知りになりたいことがございましたら、ご相談くださいませ

そうごう薬局グループ

◇そうごう薬局にご相談ください!!

健康相談会
承ります!

お薬との飲み合わせ
医薬品に限らず、サプリメントや健康食品、その他、気になる飲み合わせをお調べします

その他、お知りになりたいことがございましたら、ご相談くださいませ

そうごう薬局グループ

「地産地消で健康フェア」

地産地消に関心をもってもらい、郷土料理の継承を図り、栄養バランスに配慮した食生活を提案し、地産地消の推進と併せて健康増進を図ることを目的としたイベント。当日、まちなか広場の地産地消と健康増進ブースではJA、地元の農業高校等による地場産物の販売や都城市管理栄養士による食生活相談等が開催されました。



参加者全員に記念品とともに「そうごう薬局にご相談ください」と記載したチラシを手渡し。薬局への来局に繋がります。

朝から来場者が途切れることなく大盛況で、健康に関する関心の高さがうかがえました。今後も各自治体でのイベントや、地域公民館の行事などにそうごう薬局を呼んでもらえるような取り組みを継続してまいります。

N-NOSE®協業開始記念対談



株式会社HIROTSUバイオサイエンス
代表取締役
広津崇亮 氏

薬局事業本部
販売推進部長
西村忠能

執行役員
薬局事業本部 学術情報部長
下川友香理

西村 今回の、そうごう薬局グループでN-NOSEの取り扱いを開始したことにより、一人でも多くの方ががん早期発見・早期治療に役立てることができると期待しています。そもそもがんの早期発見に線虫を活用するというアイデアは、どこから出てきたのでしょうか。

広津 私は元々、生物学者として大学で線虫を研究していましたが、ある時にがん探知犬という、がんの匂いを嗅ぎ分ける犬の存在を知りました。ただ犬だと繁殖に時間と費用がかかりますが、線虫の場合、飼育コストが非常に安価であること、また犬より多い嗅覚受容体様遺伝子を持つことから、精度が高く、かつ安価ながんのスクリーニングが可能になるのではないかと考えたのが始まりです。

西村 実用化には多くの苦勞があったとお聞きしています。

広津 まず2016年にベンチャー企業を福岡で立ち上げたのですが、ほとんど反響がありませんでした。当時はまだ二次スクリーニングという言葉も使っておらず、世の中に対するインパクトをそれほど感じてもらえなかったのだと思います。その後、東京で自ら代表となつて再度起業した際に、総合メディカルさんからお声がけいただいたのが、今回の協業の始まりです。ただ当時はまだ自動解析装置などできておらず、我々の方でもキヤバが足りていなかったの、すぐに実現することはなかったのですが、総合メディカルさんからは、いろいろ課題はあるけれども頑張りましょう！と言っていました。



がんの専門薬剤師として
フォローできるのが
沢山あるのではと考えています

いただいたのが、とてもありがたかったですね。大きな会社がベンチャーと協業する際には、どうしてもネガティブな面が目が行ってしまつのが普通ですが、総合メディカルさんはとても前向きに考えていたのだと、とてもベンチャー企業と相性のいい会社だと感じました。

西村 そうごう薬局グループでは、2022年度内に100店舗でのN-NOSEの取り扱いを目指しています。

広津 私は元々、生物学者として大学で線虫を研究していましたが、ある時にがん探知犬という、がんの匂いを嗅ぎ分ける犬の存在を知りました。ただ犬だと繁殖に時間と費用がかかりますが、線虫の場合、飼育コストが非常に安価であること、また犬より多い嗅覚受容体様遺伝子を持つことから、精度が高く、かつ安価ながんのスクリーニングが可能になるのではないかと考えたのが始まりです。

下川 当初の想定以上に検体の持ちこみがあり、現場からも驚きの声があがっています。2年前に私が福岡の天神中央店に在籍していた時にこのお話をいただいたのですが、天神中央店ではそれ以前からがん治療を受けていらっしゃる方に対して、より良い治療をするための取り組みを開始しており、多くのがん患者さんに寄り添ってきました。患者さんの苦しみに毎日直面するなかで早期発見の大切さを痛感していましたので、N-NOSEはぜひ世の中に広めていきたいと感じていました。またN-NOSEを利用される方の生活背景や考え方を考えることで、がんの専門薬剤師としてフォローできるのが沢山あるのではと考えています。



総合メディカルさんでは、
安心感も含めてこの製品を
広めていただくと期待しています

総合メディカルさんでは、安心感も含めてこの製品を広めていただくと期待しています。がんの種類はさまざまありますが、次はがんの種類に応じて、必要な検査項目を絞り込んでいく予定です。その最初の取り組みを一緒に進めていくことは、とても意義があると思います。

西村 薬局はとても身近な医療機関です。地域の健康ステーションとして機能するためにぜひ今後とも一緒に取り組みを続けていきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。

(本対談は2022年11月に実施されました)

全国のそうごう薬局グループで N-NOSE®検査キット販売と 検体回収を開始しました



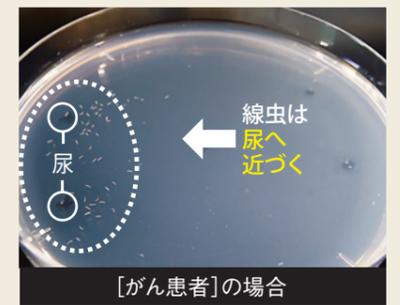
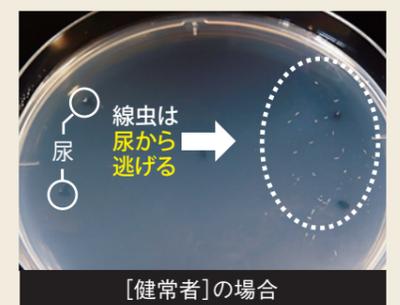
「N-NOSE(エヌノーズ)」は線虫という小さな生物が持つ“がん患者の尿に集まり、健康な方の尿からは逃げる”という性質を利用した検査です。簡便、高精度、安価でがんのリスクを判定できるなど多くの利点を兼ね備えており、がんの一次スクリーニング検査に最適です。そうごう薬局グループでは検査キットの販売と検体回収を開始しており、取扱店舗ではネット等で検査キットを購入した方が検体提出のために利用することも可能で、より高い利便性を目指します。



※2023年1月下旬を目途に、商品パッケージが新しく変わります

N-NOSE®の6つの利点

<p>簡便 検査に必要なのは尿1滴</p>	<p>高精度 線虫の嗅覚受容体様遺伝子の数は犬の約1.5倍</p>	<p>安価 低コストで定期的に受けやすい</p>
<p>早期発見 ステージ0、Iの早期がんにも反応することを臨床研究において確認</p>	<p>苦痛がない 少量の尿を採取するだけ</p>	
<p>全身網羅的 一度の検査で全身*のがんリスクを調べることができる</p>	<p><small>※線虫が反応することが分かっているがん種 2019年9月現在</small> 胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がん、膵臓がん、肝臓がん、前立腺がん、食道がん、卵巣がん、胆管がん、胆のうがん、膀胱がん、腎臓がん、口腔・咽頭がん(15種類)</p>	



特別販売キャンペーンを実施しました

こちらでは11月13日から1週間、N-NOSE®特別販売キャンペーンとして特別価格で提供するとともに、新聞折込や駅前のチラシ配布、ポスティングなどで告知しました。インターネットやテレビCMで製品は知っているけれども、どこで買えるか分からなかったという方から多くお問い合わせをいただき、キャンペーン期間中で44キットの販売と51件の検体を回収することができました。またお薬をお渡しする際に製品の説明をしたところ、そのままご購入につながったケースもあります。N-NOSE®の購入や検体回収で初めて当薬局を訪れた方も多くいらっしゃいますので、今後もコミュニケーションをとりながら処方箋の応需や健康相談など、地域の方々の健康増進のお手伝いができればと思っています。



vol.83

2023年1月発行 発行／総合メディカル株式会社
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 2-14-8
薬局事業本部 TEL：092-713-7061

